

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年5月)

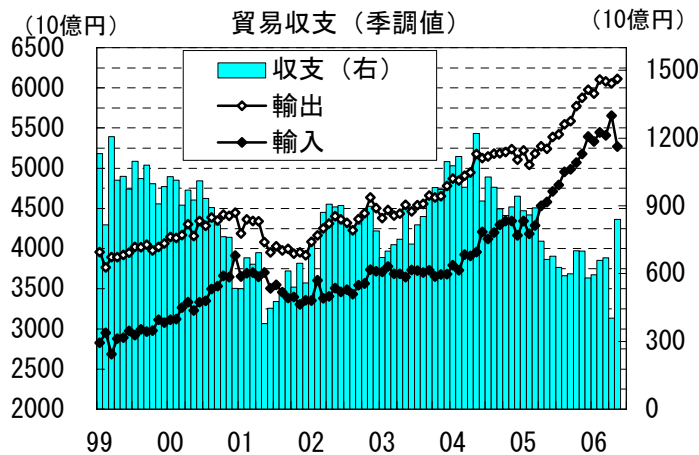
発表日2006年6月22日(木)

～先行きの貿易収支は一進一退を見込む～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年5月	663	5241	4578	285
6月	677	5390	4713	858
7月	628	5420	4793	862
8月	591	5546	4955	103
9月	599	5585	4986	949
10月	702	5771	5069	818
11月	699	5877	5178	594
12月	581	5975	5394	908
06年1月	595	5929	5335	-354
2月	659	6104	5444	947
3月	670	6080	5410	968
4月	403	6055	5652	652
5月	841	6111	5271	385

(出所: 貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年5月	1.4	3.9	▲ 2.4	2.0	▲ 8.0	▲ 5.0	18.9	8.7	9.4	7.0	3.5	10.9
6月	3.6	3.0	0.5	2.4	▲ 8.9	▲ 0.6	11.4	9.2	2.0	0.9	▲ 2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 3.1	▲ 4.5	11.9	12.6	▲ 0.6	7.5	▲ 4.8	▲ 1.2
8月	9.1	6.7	2.2	3.1	▲ 2.1	1.3	21.5	11.4	9.1	9.2	6.6	12.5
9月	8.8	7.4	1.4	3.5	▲ 3.3	▲ 2.9	17.6	13.3	3.9	5.0	4.8	3.7
10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲ 1.7	▲ 1.4	17.9	15.3	2.3	▲ 13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.0	0.6	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	▲ 0.2	6.7	20.2	14.7	4.8	▲ 15.2	▲ 2.1	11.1
5月	18.9	6.7	11.5	16.1	8.1	15.1	17.9	12.9	4.4	5.1	2.8	9.2

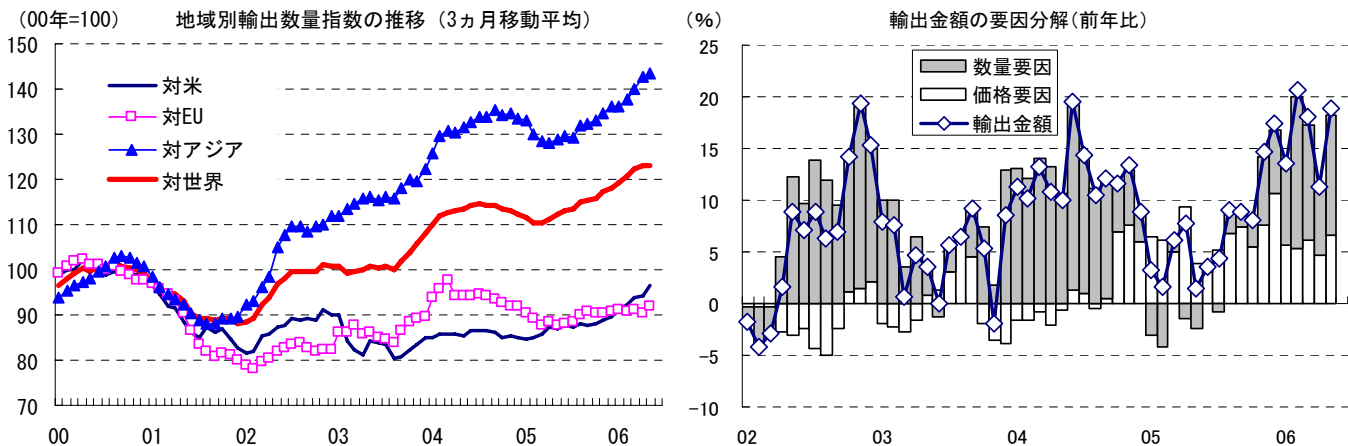
○ 貿易黒字額は17ヶ月ぶりに増加

5月の貿易収支は3,849億円(原数値)、前年比+35.2%と17ヶ月ぶりに増加した。4月に比べて5月の為替レートが円高方向に進んだことは輸入価格の押し下げ要因となったものの、原油価格の高騰が続いていることから輸入金額は引き続き高い伸びとなった。一方、輸出金額は海外需要が好調なことを背景に伸びが拡大したことから、貿易黒字額は前年を上回った。

○ 輸出数量は前年比+11.5%と伸びが拡大

輸出を数量ベースで見ると、前年比+11.5%(前月同+6.3%)と伸び率が拡大した。地域別にみると、米国向け(同+16.1%←前月同+8.7%)、アジア向け(同+15.1%←前月同+6.7%)、欧州向け(同+8.1%←前月同▲0.2%)となっており、主要地域すべてで輸出数量は大きく拡大している。米国向けに関

しては、日本車人気から自動車輸出の好調さが際立っており、5月は輸出金額の増加分の約半分が自動車輸出の寄与となった。高い環境性能や安全性能を実現している日本車の競争力は高く、外部環境に大きな変化がなければ、今後も同分野の輸出は堅調に推移する可能性が高い。また、アジア向けについては市況の回復による非鉄金属やプラスチックといった素材関連の増加が大きい。EU向けについては、船舶や自動車といった品目が好調である。また、その他の地域向けも好調であり、輸出は堅調さが持続していると考えられる。

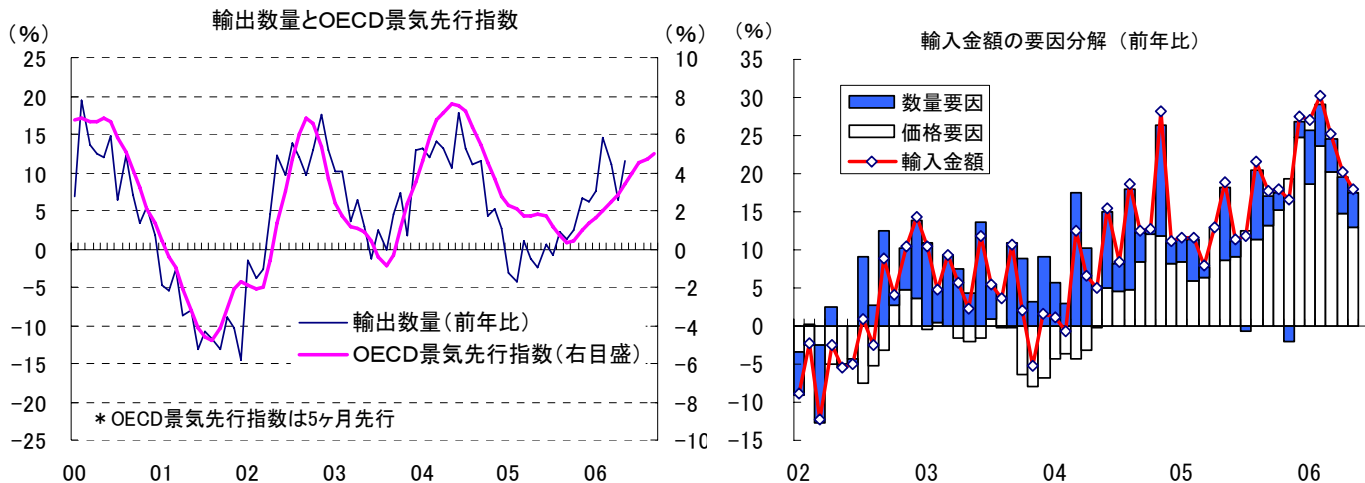


○ 先行きの貿易収支は輸出および輸入の増加テンポ次第であり、一進一退を見込む

輸出の先行指標であるOECD景気先行指数は改善傾向を辿っており、当面、輸出は堅調に推移すると考えられる。住宅部門の減速やハリケーンによる復興需要の剥落などの要因により、米国経済は今後減速してくる公算が大きいことから06年半ば以降は輸出の増加ペースが鈍る可能性があるものの、その米国経済の減速は小幅にとどまる見込みである。海外需要は底堅く推移し、輸出が大幅に落ち込むことは回避できると考えられる。輸出は増加テンポが鈍化すると考えられるものの、先行きも底堅く推移しよう。

一方、輸入に関しても拡大傾向が続く可能性が高い。雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の回復や期待成長率の上昇を背景とした設備投資の増加などの国内需要の回復により、輸入も増加傾向を辿ると判断する。

5月の貿易収支は17ヶ月ぶりに黒字額が増加となったが、先行きに関しては一進一退の展開を見込む。上述のように、輸出金額は年後半以降に増加テンポが幾分鈍化すると見られる一方、輸入金額も原油価格がさらに上昇していかなければ、価格面の押し上げ寄与は徐々に剥落してくると考えられる。輸出、輸入の増加テンポ次第であり、当面は一進一退の展開となる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。